

徳永家

北方町

東宮裾

家族みんなで子育て中

北方町東宮裾に8人の四世代家族、徳永家がある。休日の夕方、家族全員がそろう時間帯にお話を聞かせていただいた。「あらためて話すと、本当に家のことまかせつきりですね」と徳永家のママ。

帰りが遅いママの代わりに、徳永家では夕食を作るのはひいばあちゃんとかあば。子ども達をお風呂に入れるのはパパ、もしくははじいじ。園への送迎はあばで、日によってはひいじいちゃんとかひいばあちゃんが。この4世代家族だからこそ、ママは仕事を続けることができる。

「でも、さすがにあーちゃんの口からポンポン出てくる『しっこまる(※1)』や『ひょうげよう(※2)』って方言には笑いますよ。私も意味は分かるけど使いませんし。あと、あーちゃんは漬物が大好きなんです。うめぼしとか瓜漬けとか。ばあちゃんたちに食べさせてもらってるんでしょうね」とママは楽しげに話してくれた。

※1 しっこまる…トイレに行く、という意味
※2 ひょうげよう…ふざける、という意味

子どもの居場所がある家

徳永家の家庭には子ども達の居場所が多い。

子ども達はパパとお風呂の後に「それぞれの部屋に美味しいものを食べに行く」のどという。まずは台所の冷蔵庫をママと物色。その後、ばあばの部屋でアイスを食べ、2本目の許可を取りにママへ。許可が下りないと、今度はこっそり「おかし

の国」ひいばあちゃんの部屋で、はちみつを舐める。「この家は子どもにとって逃げ場がたくさんあるんです」とママ。パパとママだけでは子どもを厳しく叱り、追い詰めてしまうこともある。時には子どもを甘やかして、逃げ場となる人が家庭内には必要だ。その点、徳永家には両親以外に4人も逃げ場となる家族がいる。

自分の好いたごとせんば

徳永家のひいじいちゃんは週3回、花市場へ出荷する現役花農家。だが、特に家族に継ぐことを勧めなかったという。

「家族みんなで同じ仕事についていたら、うまくはいかない。家の中でも仕事の話でケンカになる。それに自分の好きな仕事だったら、最後まで現役でいられる方法を自分で模索するでしょう。だから介護なんていらない」とひいじいちゃんは語る。

徳永家は基本的に「自分の好いたごと」が多い。仕事もそう、休日も出かけた時に、出かけた

場所へ行く。食事の時間も各自の仕事に合わせてバラバラ。それでも、大家族なので家の中で誰かと誰かが顔を合わせる。

「徳永家はみんな、マイペース。だから気兼ねなく、楽しく生活できるんですね」とママは笑う。

徳永家の人々は自分の仕事を持ちながらも、パパとママの子育てを仕事の合間に「手伝って」いるのではない。家族全員がまさに仕事をしながら、自分の家庭内での役割として、家事と子育てを「両立」しているのだ。葵音ちゃんと晴太くんにとっては、パパとママがさらに4人いるようなもの。そして、それはとても羨ましいことだと思う。

家系図

